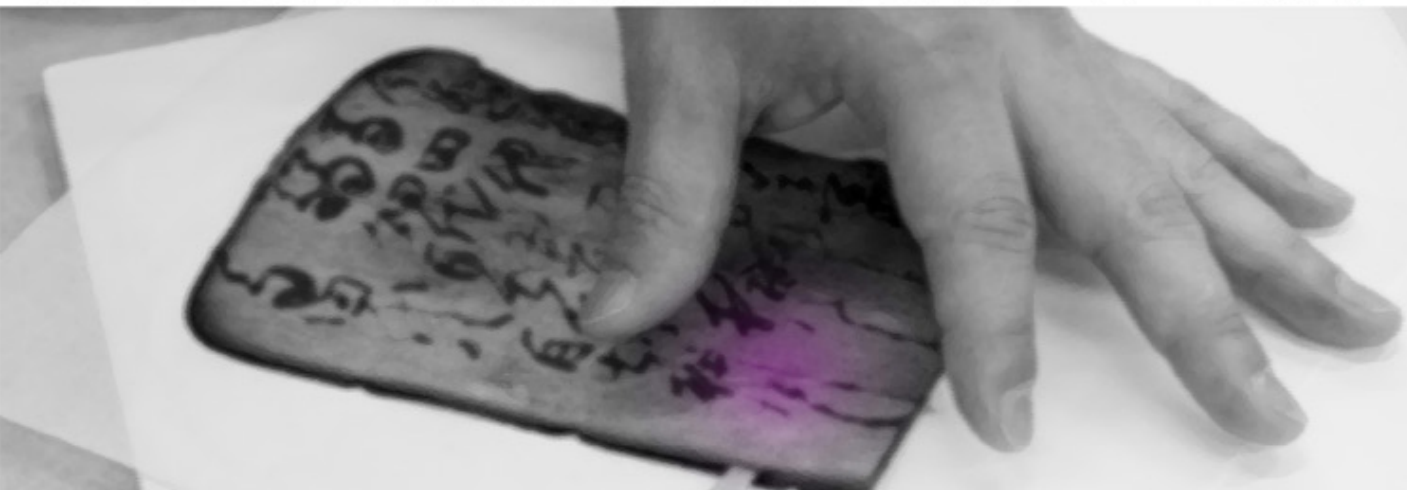


# 災害から文化とコミュニティをまもる



講演 松下正和氏 (近大姫路大学教育学部講師・歴史資料ネットワーク副代表)



ディスカッション 松下正和氏 × 増田豪氏 (延岡市内藤記念館学芸員) × 小野雅春氏 (延岡市北川地区川坂神楽保存会会長) × 加藤謙介氏 (九州保健福祉大学社会福祉学部講師)



写真展示解説: 河野未央氏 (歴史資料ネットワーク事務局)

司会 木佐貫ひとみ (フリーパーソナリティ) ディスカッションコーディネーター 山内利秋 (九州保健福祉大学)

主催: 九州保健福祉大学QOL研究機構社会福祉学研究所 延岡市

後援: 宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市教育委員会・大学おうえん協議会

宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送

延岡市中小企業振興センター 5F

延岡市東本小路 121 番地 |

2011.12.10 (土) 14:00 ~ 16:30 (開場 13:30)

入場無料・定員 80 名 (事前申し込みは不要)

連絡先: ☎ 882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1

九州保健福祉大学社会福祉学部 山内研究室

e-mail: yamatosh@phoenix.ac.jp

tel: 0982-23-5555 (代)



## 主旨

日本列島の広範囲に被害をもたらし、日常生活から産業・経済、環境に至るまで甚大な影響を与え続けている東日本大震災は、我が国の様々な仕組みを崩壊させ、なおかつ現在進行形で激変の最中にある。距離的に離れた九州の地は、一見この大災害とは関係が無さそうにみえながらも、電力供給問題に象徴されるように無関心でいる訳にはいかないのは当然だろう。

ところで、九州では人口減少の煽りを受けながらも、地縁・血縁によって関係付けられている地域コミュニティのつながりが今も根強い。そしてこの伝統的なコミュニティに残っているような相互扶助的な考え方は、公的扶助が限界に近付いた現代社会において見直されつつもある。これらコミュニティを代々結び付けてきたのが伝統文化や、積み重ねられてきた地域社会の記憶・記録である。

翻って東北地方をみると、被災し、途切れようとしているコミュニティを、その地で生み出されてきた伝統文化や家族を記録した写真がつなげようとしている様子が色々な場面で伝えられているのがわかるだろう。

今、蓄積されてきた文化を地域社会で守る事こそが、コミュニティを結節させていく重要な手段であるのは明らかである。特に災害の多い南九州ではこの事を考えていく必要性が高い。今回は東日本大震災をはじめ、各地で文化資源のレスキュー活動を行っている松下正和氏を招き、災害から文化とコミュニティを守る取り組みについて講演して頂く。それを受けて、宮崎県を中心とした地域コミュニティにおけるこれからの取り組みについてディスカッションしていく。

## 内容

### 1：講演 (14:05 ~ 15:05 予定)

歴史と文化を活かした震災復興とコミュニティ再生

1995 阪神大震災 - 2011 東日本大震災の被災史料保全活動から考える

松下正和氏 (近大姫路大学教育学部講師・歴史資料ネットワーク副代表)

### 2：写真展示解説 (15:05 ~ 15:25、休憩時間に実施)

河野未央氏 (歴史資料ネットワーク事務局員)

### 3：ディスカッション (15:25 ~ 16:30)

松下正和氏 (上記)・増田豪氏 (延岡市内藤記念館学芸員・宮崎歴史資料ネットワーク事務局)・

小野雅春氏 (延岡市北川地区川坂神楽保存会会長)・加藤謙介氏 (九州保健福祉大学社会福祉学部講師)

司会：木佐貫ひとみ (フリーパーソナリティー)

ディスカッションコーディネーター：山内利秋 (九州保健福祉大学)

当日は宮日会館宮日ホールで開催する講演会『考古学から「今」を考える』(宮崎県教職員互助会・NPO 法人 iさいと主催)と一部インターネット中継でつなぎ、ディスカッションを行う計画です。

※予定は電波状況等で変更になる事があります。

※会場裏に駐車場がございます。3時間まで無料ですが、会場利用者はそれ以上でも利用券の処理を1F受付で行えば無料です。